松ヶ崎だより

学校評価特集号

京都市左京区松ヶ崎堀町40
TEL.075(781)3380／FAX.075(781)3252
http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=108201

令和8年10月28日
京都市立松ヶ崎小学校
校長　武田　亜希子

子どもを共に育む
京都市民憲章
京都はぐくみ憲章
社会のあらゆる場で実践し，行動の輪を広げましょう！

アンケートへのご回答ありがとうございました

学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。このアンケートは学校評価の一環として、子どもアンケートとともに実施しています。本号では、アンケートの結果と、結果をもとにした自己評価についてダイジェストでお伝えします。

＜アンケート調査の概要＞

対象	調査期間	対象数	集計数
子ども	6月15日（月）～6月19日（金）	338名	322名（95.3%）
保護者	6月15日（月）～6月19日（金）	343名	310名（90.4%）

＜アンケート調査の特徴＞

比較評価のため児童・保護者・教職員のアンケートでの質問を、それぞれが同じ内容になるように項目をそろえている。

例）項目1
子：学校へ行くのが楽しい。
保：子どもは、学校が楽しいと感じている。
教：学校が楽しいと感じるように、授業をしたり活動をさせたりしている。

＜アンケートをもとにした自己評価の流れについて＞

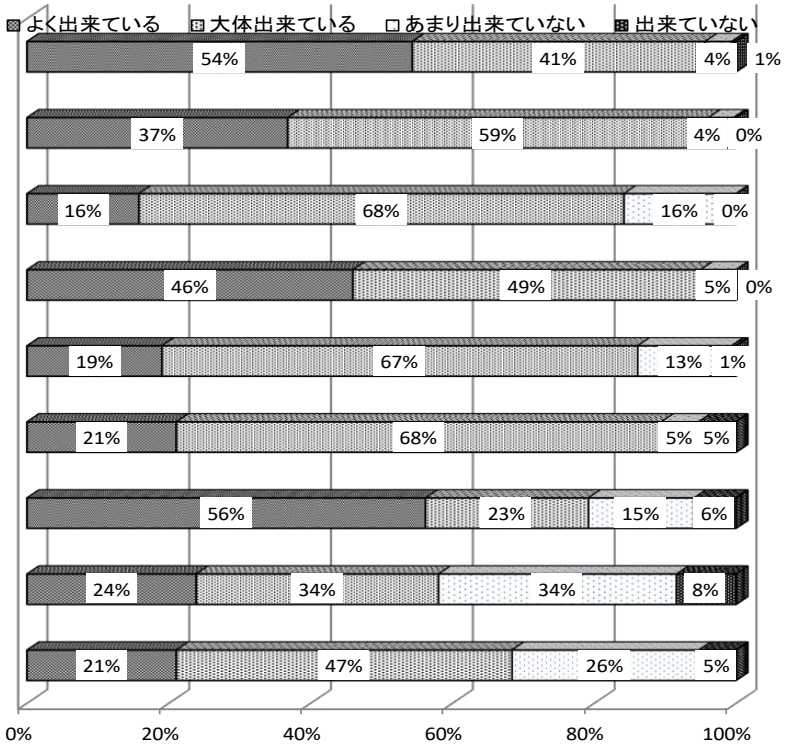
① 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成　という3つの視点で教職員にもアンケート調査を実施。（6月）
② アンケート結果をもとに成果と課題を明らかにし、課題の解決に向けた取組について教職員で共通理解。（8月24日）
③ 自己評価の中身について、学校運営協議会に説明。学校運営協議会から、自己評価に対する意見と評価。（10月6日）
④ 成果と課題、課題の解決に向けた取組をまとめた「子ども・保護者・教職員アンケートをもとにした自己評価」を作成（10月）

＜ダイジェスト版の見方＞

子ども・保護者・教職員アンケートの結果を、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成という3つの視点に分けて、グラフで示しています。紙面の関係上、子どもや保護者の方のアンケート結果の全てを載せることができませんが、ご容赦ください。子ども・保護者・教職員アンケートの全ての結果は、ホームページ上に公表いたします。

「確かな学力」の育成に向けて

子	授業がわかりやすく楽しい。
保	学校では、わかりやすく楽しい授業が行われている。
教	わかりやすく、楽しい授業を行っている。
子	話を聞く時は、相手を見て、最後まで静かに聞いている。
保	子どもは、相手を見て最後まできくことができる。
教	「相手を見て、最後まで聞く」ことの指導を徹底している。
子	自分からすすんで本を読んでいる。
保	子どもは、すすんで読書をしている。
教	授業等で、読書に親しむような指導や取組を行っている。



＜アンケートから見えてきた成果（○）と課題（●） 課題の解決に向けた取組（◎）＞

1. 楽しく学ぶ授業

○交換授業の実施によって、担任・学年担当の間で学年の情報を共有し、授業に生かすことができている。

○地域のゲストティーチャーに来ていただいて、体験を伴う楽しい学習を実施することができている。

●友だちの意見につけたしたりつなげたりし、考えを深める活動をすることに課題がある。

◎担任と児童、児童同士の関係を築いていく。

◎かがやき学習を中心に積極的に地域の方に講師をお願いしていく。

◎授業や松ヶ崎タイムでグループでの話し合い活動を取り入れ、協働的な学びとなるようにする。

2. 読書の習慣

○低学年では、すすんで読書をする児童の割合が高い。

○図書ボランティアの方に定期的に読み聞かせの時間を設定していただいた。

●高学年になると、すすんで読書をする児童の割合が低くなる。

◎図書館教育部と図書館司書・図書ボランティアの連携を積極的に行い、読書活動の充実につなげる。

3. 全体を通して

○６年生の全国学力学習状況調査、５・６年生のジョイントプログラムの結果より、全体的に高い学力がついていることが確かめられた。

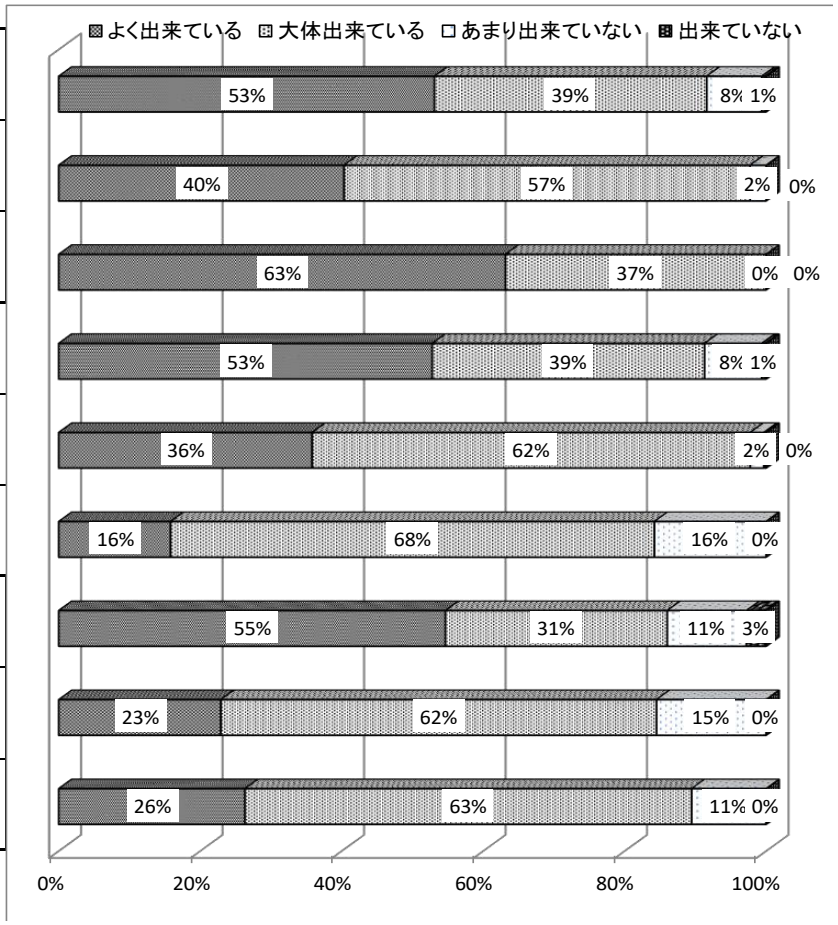
○ｉＰａｄ等の ICT 機器を効果的に活用し、児童が主体的に学習を進めることができている。

◎高い学力をベースに質の高い授業が行えるように教職員の研修を進め、授業改善に努める。

◎授業技術の向上を図るための公開授業を行う。

「豊かな心」の育成に向けて

子	先生は、わたしの良い所やがんばっている所をほめてくれる。
保	子どもは、学校の教員に良い所やがんばっている所を認めてもらっている。
教	子どもの良い所やがんばりをほめ、価値を伝えている。
子	友だちの良い所を見つけ、だれとでも力を合わせてがんばっている。
保	子どもは、友だちの良い所を見つけることができる。
教	「共感的人間関係を育成する」手立てを日常の授業の中で行っている。
子	自分にはよいところがあると思う。
保	子どもは、自分の良い所を自覚している。
教	「自己存在感を与える」手立てを日常の授業の中で行っている。



＜アンケートから見えてきた成果（○）と課題（●） 課題の解決に向けた取組（◎）＞

1.「あいさつ」「物の使い方」

○全ての学年で、あいさつをすることができているという児童の割合が高い。

○全ての学年で、くつをそろえることや使った物を元の場所へ片付けることなど、みんなのことを考えて物を使っているという児童の割合が高い。

◎あいさつや物の使い方など、当たり前に出来ていることを具体的にほめて価値づけをしていく。

◎教職員が積極的にあいさつする姿を見せる。

2. 自己肯定感・自己有用感

○自己肯定感が高い児童が多い。低学年ではそのように感じている児童の割合が高く、高学年では若干低くなる。

○教職員から良い所やがんばっている所をほめてもらっているという児童の割合が高く、児童と教職員が日頃からコミュニケーションをとり、良好な関係を築くことができている。

●学校に不安を感じる子、不登校傾向の子もいる。

◎教職員が一人一人の良さを認め、そのことを伝えていく。

◎温かい人間関係が築かれる学級経営を心がける。

3. 全体を通して

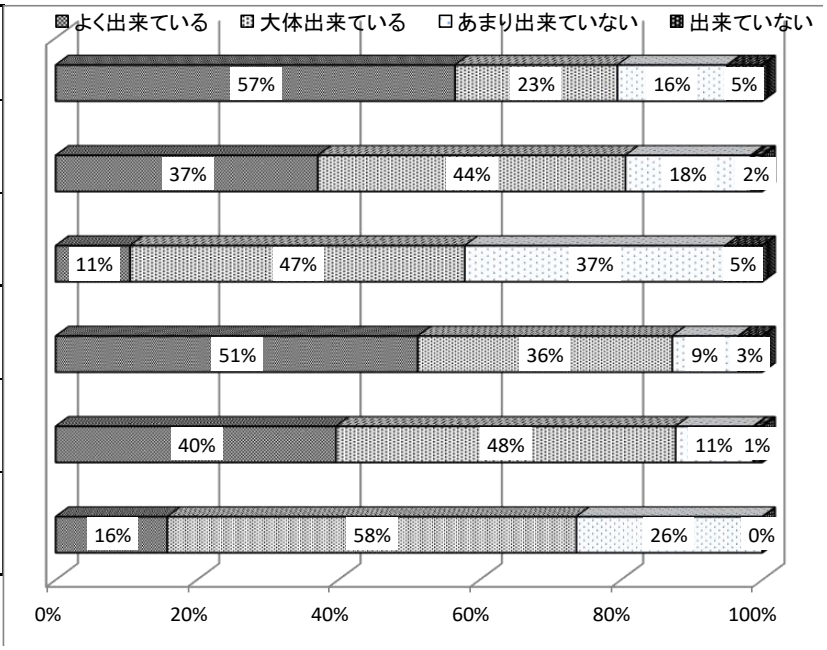
○毎月の朝会での学校長の話や計画委員の劇で、各月の人権テーマについて考えることができている。

○学校の雰囲気が全体的に落ち着いており、一人一人の子どもが穏やかに過ごすことができている。

◎人権教育を大切にし、テーマをもった指導を継続する。

「健やかな体」の育成に向けて

子	外遊びなどで、すすんで体を動かしている。
保	子どもは、すすんで体を動かす遊びをしている。
教	いろいろな運動遊びを子どもに教えている。
子	早寝・早起きをして、朝ご飯を食べている。
保	子どもは、早寝・早起きをし、朝ご飯を食べている。
教	早寝・早起きをし、朝ご飯を食べることについて指導をしている。



＜アンケートから見えてきた成果（○）と課題（●） 課題の解決に向けた取組（◎）＞

○休み時間には子どもたちといっしょに外へ出て遊ぶ担任の姿があり、外で遊ぶ児童は多い。

●５・６年生では、外に出て遊ぶ児童の割合が低くなっている。

●遅刻する児童が多い。

◎外遊びは担任の意識によって、外で遊ぶ子の割合が変わるので、担任の指導の一つと捉えるようにする。

◎休み時間の児童の様子を見て、外遊びしない子には担任が声掛けをしたり、一緒に遊んだりする。

◎たてわり活動や委員会での取組等、体力向上のために運動したり遊んだりする機会を設けていく。

自由記述から

ご多用の中、自由記述欄にもご意見をいただき、本当にありがとうございました。いくつか、紹介します。

- すぐーるでのお便り配信や出欠連絡などが、とても便利だと感じています。
- 学力の向上だけでなく、主体性やコミュニケーション力、考える力など、これからの時代を生きていくために必要な力を育む教育を期待しています。
- 自主勉強の趣旨や進め方について、年度当初に文書でご案内いただき、とても分かりやすく感じました。
- 担任の先生だけでなく隣の先生や各教科の先生との交流もよく聞き、先生方が積極的に声掛け等をしてもらえるのは助かります。

ご意見ありがとうございます。紹介できなかったご意見も含めて、お答えできるものについては、個人懇談の場などでもお伝えしました。

ご家庭・地域の皆様におかれましては、日々の教育活動を支えていただきありがとうございます。引き続き、ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。